



企業は企業製品とサービスへ表現される

令和6年6月26日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

企業は企業製品とサービスに表現される。これらは自己製品とサービスを世界の先端とトップへ求めることで、新しい企業の可能性を実現できるのである。

これらは理解という基盤がより優れた理解とともに、独創性を可能とすることが、製品の優位性を実現できるのである。

これらは市場への理解を求め、世界の一流大学における基礎研究の進歩を受け入れることで、これら技術の応用とともに製品とサービスの確立を提案できるのである。

これらは完全な企業経営と製品開発における自己基準の転換において、時代性とともにした新しい企業としての確立を実現できるのである。

これらは、独創性は、必ずその基盤を求めるのである。それは製品に対する理解なのである。

これらは知的産業への転換は、新しい企業経営システムを求め、企業経営における全ての現実への新規企業経営基準の受け入れを求められるのである。

これらは既存現実の崩壊へ、その泥舟とともに沈むことは企業において不可能であり、これら時代性という判断と基準における企業転換の必要性を与えられるのである。

これらは一流企業コンサルティングにおけるアドバイスや指摘などにおいて、時代先端性を理解し受け入れることで、既存常識から新現実への転換を求めることが可能である。

これらは生産性や効率性の向上などとともに、世界における先端性は遥かに優れた企業環境への転換を明確に行なっているのである。

これらは既存現実との飛躍はもはや不可能であり、それら現実に従うことが企業における唯一の選択なのである。

これらは必ず企業の最後の挑戦である。未来という理想は必ず夢を有するのである。